

## 都道府県展望：特集 知事が語る「わが都道府県の平成23年度施策方針と重点施策」

### みんなでやらいや未来づくり～「歴史の分水嶺」を越えて

私は、この4月、多くの県民の皆様の御支持を賜り、知事として二期目の県政推進に当たらせていただくこととなりました。

現在の日本は、相次ぐ災害、経済・雇用の停滞、少子高齢化など待ったなしの課題を抱えています。3月11日に発生した東日本大震災は、これから日本という国が社会のシステムを大きく変えていく転機を迎えた出来事であり、私たちは、被災地の復旧・復興はもとより、「歴史の分水嶺」とも言えるパラダイムシフトを越えて、新たな時代を力強く創り上げていかなければなりません。

人口最少の鳥取県が、機動力を活かして、地域から新しいシステムを作り上げていく「未来づくり」の先頭に立っていきたいと思います。

#### ○「パートナー県政」

震災という国難を乗り越え、少子高齢化などの課題に挑みながら地域を発展させることは、県庁だけでは不可能であり、県民の皆様をはじめ、企業、NPO、市町村など様々なセクターと協働・連携し、顔の見えるネットワークを組んで最大限の力を発揮しなければなりません。昨年度日本一の評価をいただいた県政の透明度を一層高めつつ、住民投票も含めて県民の皆様の県政参画の基本を定める「県民参画基本条例（仮称）」の検討に着手します。

#### ○「産業未来・雇用創造」

いまだ低迷する経済雇用情勢から脱却するため、本県の未来をリードする産業創出を推進するとともに、暮らしの安定に向け雇用創造を図らなければなりません。

環境、エネルギー、バイオなどの次世代型産業による経済成長を戦略的に追求して中小企業の底力アップを応援し、美容・健康商品素材の開発や農医連携など、新たな産業を創出する取組を進めます。

また、積極的な企業誘致、職場体験型雇用制度の拡充、魅力ある農林水産業の発展のほか、観光・福祉・医療等も含めたあらゆる分野での雇用の確保を図り、4年間で1万人の雇用創造を目指します。

さらに、環日本海時代をリードする航路・空路の拡充、高速道路整備などを着実に推進するとともに、海外販路開拓拠点整備などの企業支援や新たな海外物流ルートの実証実験を行うなど、確かな産業展開へ繋げていくよう取り組みます。

#### ○「暮らしに安心」

東日本大震災では、大津波や原発事故など「想定外」とされていた大災害が現実には発生しました。これを教訓に、県内における今後の防災対策として、津波の被害想定、隣県の鳥根県に立地する原子力発電所での事故を想定した避難計画策定、大災害時の業務継続計画の検討など、危機管理政策を早急に進めます。

また、老若男女を問わず安心して暮らせる鳥取県づくりのために、障がい者・高齢者・児童等を地域住民で支え合う「支え愛」まちづくりに向け、全市町村に「支え愛コーディネーター」を養成します。

○「人財とっとり」

人口最少県を支える宝となる人材＝“人財”の育成は、「未来づくり」のために不可欠です。教育水準を高めるため、全国に先駆けて始めた小中学校の少人数学級編制を、来年度からさらに多くの学年に拡充するための具体策について検討を進めるとともに、高等特別支援学校の2年後の開校を目指します。

さらに、子育て環境の改善に向け、放課後児童クラブ障がい児受入助成や病児・病後児保育充実のための保育士配置助成を行うほか、不妊治療拡大、男性の育児休業の促進などにも取り組めます。

○「彩り、輝き一鳥取の誇り」

美しい自然環境、輝く文化芸術活動など、鳥取の誇りと輝きを高め、地域の魅力を最大に引き出し、県内外の多くの方々にその素晴らしさを発信していかなければなりません。

自然環境を活かし、農業ダムやため池を活用した小水力発電、農業用施設での太陽光発電の調査・検討を行います。

文化観光分野では、著名な漫画家を数多く輩出している「まんが王国」鳥取県として、来年度に本県で開催する国際マンガサミットの準備を進めるほか、昨年度世界ジオパークネットワークに加盟した「山陰海岸ジオパーク」の振興に向けたウォーキングイベント等も開催します。

活力と安心がみなぎり、皆が住んでみたくなるような鳥取県の未来づくりを果たすことで、その延長線上に日本の再生・復興の光が見えてくる…。「みんなでやらいや未来づくり」に挑戦します。

(1, 756字)